

支部を盛り上げよう!

青年部長 船津 泰和

あけましておめでとうございます。

昨年11月22日(金)、第39回大阪支部青年部定期総会が、青年部新旧役員、総勢16名で開催されました。

開会に先立ち横山副委員長から「今期は自分たちで考え、勉強会や学習会を開き、やらされるのではなくて、自主性を持って活動して下さい。失敗する事もあると思いますが、その経験をみんなで共有し



全港湾大阪支部青年部第39回定期総会

て自分たちの力に変えて頑張ってください」と激励をいただきました。

2023年度活動報告、会計報告、2024年度運動方針、役員体制の提案があり、全会一致で承認されました。新役員体制となり青年部全体でいろいろな活動に積極的に参加し、学習するだけでなく、全体を見て自分たちで考えて、失敗することを怖れず自分の実力にしていきたいです。特に、今期から予算を増額していただいたので、勉強会や他労組との交流など積極的に活動し、横の繋がりも大切にしていきたいと思ひます。

わたしたち青年部の活動は先輩方が築いてきた活動や学習する場であるので、後輩たちに繋げていくためにも青年部全体で頑張っていけないと感じました。新旧役員あいさつの後、「団結がんばろー!」で定期総会を締めました。

大阪支部を盛り上げるためにも、青年部がエネルギー高く、モチベーションを上げて、活発な活動を目指して頑張っていきます。

2024年度青年部役員体制

- 部長 船津 泰和 (大阪港埠頭T)
- 副部長 稲葉 拓磨 (此花荷役)
- 副部長 平澤 悠磨 (大正埠頭)
- 事務局長 佐久原 海 (大商)
- 事務局次長 津村 拓哉 (栃木協鐵)
- 運営委員 山本 光伸 (大阪港埠頭T)
- 運営委員 中野 聖也 (大阪港埠頭T)
- 運営委員 鯨江 尚貴 (加藤運輸)
- 運営委員 森兼 章博 (加藤運輸)
- 運営委員 片山 拓真 (此花荷役)
- 運営委員 佐久原 秀大 (大商)
- 運営委員 安部 秀紀 (栃木協鐵)
- 青対部(執行部) 横山 貴安基 (スミサク)

とぎれずモチモチ37かい

笑顔あふれる餅つき大会

昨年12月1日に、大阪支部主催の「海の子学園ふれあいもちつき大会」を開催しました。

子供たちと一緒に餅つきをしたり、フランクフルトを焼いたり、楽しい時間を共有しました。

もちつきの後、恒例のドッジボー

ル大会では、大変白熱しましたが、怪我なく終わって良かったです。

コロナ禍の期間を除いて、今回で37回目でした。これからも40回、50回と途切れる事なく毎年開催していきたいと思ひます。

(青年部長 船津 泰和)



だんけつ



発行 大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 陣内恒治



労働運動・政治運動を団結の力で乗り切ろう

執行委員長 小林 勝彦

新年おめでとうございます。全港湾大阪支部組合員とご家族の皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。

迎えた2025年は乙巳(きのとみ)の年です。乙(きのと)は、十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持ちます。また巳(み・へび)は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされております。そのため乙巳(きのとみ)の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられます。また、新しい段階へ進む準備が整った状態を示す「乙」と「巳」の合わさる「乙巳」であることから2025年は、芽吹きが成熟し、転機を迎える時期になると言われています。

私たち大阪支部にとって昨年は、「年々高まる災害の恐ろしさ、政治家特権政治を改めて考えさせられた年」でした。年明け早々の能登半島地震、豊後水道地震、向灘地震(南海トラフ地震臨時情報発令)、能登半島豪雨など地震や大雨が各所で相次ぎました。さらには、2023年と並んで日本の観測史上最も暑い夏と言われた猛暑で苦しめられ、辰年の「竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動」が悪い方向で当たってしまった年になってしまいました。

24春闘は、ガソリン、光熱費や生活必需品などの物価高騰に歯止めがかからない状況が続き、労働者の生活は、疲弊していく中で、「賃金」を取りに行く闘いから始まりました。結果は、中小零細企業で組織された分会が大半であることから、企業の苦しい状況を鑑みて満足とは、言えないながらも妥結となりました。また、夏、冬の一時金闘争も全体的に満足できる結果には至りませんでした。その背景には、元請けや荷主

が適正な料金を見直すどころか、トラック産業の2024問題の煽りが運送業のみならず港湾店社へも悪影響が出ていることも要因の一つだと言えます。

一方、社会情勢を見てみるとロシア、ウクライナ戦争を皮切りにイスラエルによるガザ地区攻撃など戦争や内紛が一層激しくなりつつあります。戦争危機を国民に煽り台湾有事や朝鮮敵国を理由に軍事大国を目指す岸田政権から引き継いだはずの石破政権は、キックバックと言う裏金問題で、またしても政治とカネに振り回され、挙句には衆院選最中に処分を下した候補者支部への2000万円支給問題で大敗する結果となりました。しかし、自公与党政権の過半数を阻止した野党であったが、立憲野党も過半数に届かず与党の皮を被った維新・国民がカギを握る形なり事実上、政権交代にはなりません。

全日建闘生弾圧による労働組合つぶしは8年目を迎えました。この間の裁判や名高い法学者の見解を総括すれば、憲法28条を蔑ろにした事件である事は紛れもない事実であると確信しました。

それは、99.9%が有罪となる日本の刑事裁判に於いて、無罪率34%と言う数字が物語っている通り一連の事件が警察・検察によるでっち上げの事件である証拠である事は明らかです。労働組合として、この事実を見過ごせば支部がこれまでに積み重ねて来た実績が崩されかねません。労働組合として闘えなくなる。いわゆる意味が無くなるということです。

結びに、全港湾大阪支部は、組合員一人ひとりを大切に、そして互いに支え合える組織として、地域の仲間と共に平和と労働組合としての権利を守る闘いを団結の力で勝ち抜く事を再確認し、この新しい年がよい年でありますよう心から祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。

港湾部会・車両部会 春闘討論集会

★港湾部会

新年あけましておめでとうございます。今年も港湾部会一致団結して、労働条件向上を勝ち取るための闘いに対し、ご理解ご協力いただきます様よろしくお祈りします。

昨年12月6日(金)、地本会議室にて「全港湾大阪支部24年総会・25春闘討論集会」を16名参加で開催されました。

総会では、部会長と委員長から挨拶があり、その後、港湾部会役員から24年活動報告・25年運動方針案が提案され、全体討議を経て承認されました。新役員体制も承認され、部会長から港湾部会総括として、「24年の反省を踏まえて、25年の港湾部会は全体共有を重きに置き団結していこう」と述べました。

続けて、討論集会では「1. 要求額について」「2. 定年延長制度について」「3. 万博・I R・カジノ問題について」ま

た追加討議として「4. 特定利用空港・港湾」「5. マイナンバー制度について」全体討議されました。特に要求額については多くの意見がありました。

異例ではありますが、港湾部会25討論集会の場で、要求額は決定することが出来なかったのが実状です。その他の討議については、具体的な方針が確立され、支部討論集会に反映されることとなります。

現在、物価高騰や社会保険負担増などの影響で実質賃金が低下し、我々の生活がひっ迫されているのはいうまでもありません。それに見合う賃上げを勝ち取らなければなりません。大阪支部のように中小零細企業を中心としている場合、結局は料金問題となるのがほとんどです。その為、要求額というのは高ければ良いというものではなく、いかに組合員全体が組織的に闘って勝ち取ることが出来るかだと

思います。

今年「大阪・関西万博」開催もあり、港頭地域では渋滞問題をはじめ大きな影響があるものだと予想されます。「I R・カジノ建設問題」には「我々の職域に博打場を絶対につくらせない!」の声を上げ反対運動の強化が重要です。



特定利用空港・港湾について、自衛隊・海上保安庁が戦闘機や護衛艦の平時の訓練利用などを目的とするもので、港湾では現在全国で20か所指定されています。有事となれば港湾施設が標的となるのは明白であり、我々の職場を兵站基地することを決して許してはなりません。

大きな問題が山積していますが、我々港湾部会は共有を強化することで、組織的な運動を展開し、大阪支部の中心となってこの2025年を闘っていきたいと思います。

港湾部会長 横山 貴安基



2024.12.6 港湾部会

★車両部会

組合員の皆様、新年明けましておめでとうございます。年々働き方が制限され厳しい環境の中、日々の組合活動に参加協力していただいていることに感謝致します。

また、今年も車両部会一丸となって、しっかり取り組みたいと思います。

昨年12月15日(日)、大阪港湾労働者第1福祉センター3階にて「大阪支部車両部会25春闘討論集会・24年総括学習会(ディスカッション形式)」を12分会総勢24名で、おこないました。

車両部会春闘討論集会では部会長の挨拶及び支部長からの挨拶と激励がありました。その後、事務局長から「車両部会2025年春闘方針(案)」が提案されました。

トラック労働者のたたかいとして、2024年~25年度の運動方針を基に各省庁、関係行政への制度政策要求行動も積極的に取り組みます。また、労働組合と企業が手を取り合い、これま

で以上に一步踏み込んだ議論ができつつある中、もう一步踏み込んだ具体的な課題を共有して、トラック産業の将来を考える懇話会・近畿や交運労協とも連携をとりながら行政交渉を取り組みます。

また、車両部会といっても業種により、問題はそれぞれであり、トラック・生コンバラセメント・地域公共交通、における重要課題について提起され、定年延長制度やマイナンバーカードに関する全体討議もされました。

討論集会で議論を重ねた結果、車両部会としての春闘要求金額は40,000円とする事とし、支

部春闘討論集会での報告を確認しました。

今回は、車両部会組合員に対する「2024年問題」働き方改革の動向や、時間外労働960時間規制に対するトラックドライバーの意識調査アンケート(12分会28名)をもとにディスカッションおこないました。

車両部会では、もはや物流が滞ることで、運搬物が運べなくなるという日本国民すべての問題となっていることを自負し、労働組合が先頭に立って賃上げ要求を果たし、魅力ある産業へ変貌できるよう運動していきます。

車両部会長 南野 一樹



2024.12.15 車両部会

梅南鋼材分会ニュース

梅南鋼材株式会社 最高裁で敗訴!

梅南鋼材株式会社は、大阪府労働委員会が認定した労働組合法第7条による不当労働行為を認定した命令書を不服として、大阪地裁、大阪高裁、最高裁のいずれもが会社側の請求を棄却し、代理人弁護士主張が間違っていたと事実認定された。

敗訴しても団体交渉に応じます!
不当労働行為を続ける梅南鋼材株式会社!
会社は団体交渉に応じる!
不当労働行為を謝罪しろ!

梅南鋼材へ抗議行動

12月20日分代終了後、16名で梅南鋼材へ向かい、堂上社長に抗議文を手渡しました。現地で、抗議集会をおこない、街宣行動と周辺工場にポスティングをおこないました。

(副委員長 吉本)

